

えいらい

No.9

平成 23 年 9 月発行

発行元／財団法人永頼会 松山市民病院

秋号
2011〒790-0067 愛媛県松山市大手町 2 丁目 6-5 TEL / 089-943-1151 FAX / 089-947-0026
発行責任者／院長 山本祐司 編集／松山市民病院広報委員会

近況報告

～新 S 棟建設の実現へ向けて～



院長 山本 祐司

「3.11」の東日本大震災の被災者の方々には、心よりお見舞いを申し上げ、早期の復旧・復興を祈念いたします。また、愛媛・松山の医療機関の皆様には、いつも救急医療や地域連携において、松山市民病院とご交流いただき感謝申し上げます。

当病院の近況ですが、診療面では、4月より「神経内科」が週1回、6月からは「婦人科」が週2回外来診療開始となりました。なかでも婦人科は、女性のドック・がん検診など幅広く対応可能となりました。お気軽にご紹介いただけますようお願い申し上げます。また、土曜外来診療が新患と予約再来のみに縮減され、職員は4週6休のシフト勤務制に移行しています。さらに制服の新調や院内託児所の開設など、職員の就労環境を整備し、ワーク・ライフバランスの確保と定着率の向上を目指します。

一方、経営管理部門では、事務長を院長補佐に、また医事・総務・経理部に部長・課長級の役職者を任命し、次世代を見据えた組織体制の改革を図り、院内業務のIT化・システム化などに備えました。役職者はその職位に見合う役割を自覚し、公益法人制度改革や新S棟建設を機会に、診療部・看護部・診療技術部などと横の連携をとりながら、病院全体の運営・経営を支えるべく貢献できるよう期待します。

さて、当病院のS(南)棟は昭和49年建設後37年が経過し、設備や構造などの老朽化により、建て替えは必至となっています。このS棟増改築計画は宮田前院長時代からの懸案事項であり、5月の永頼会理事会での承認により、いよいよ新S棟建設の実現へ向けて取り組むことが表明されました。

事業規模に見合った予算と建設工期

を勘案し、いくつかの基本プランを図面に起こし、職員との意見交換を図りながら練り上げてきています。新S棟案は、地上7階建てで、1～3階には総合受付、外来、薬剤・放射線・検査部、手術部・ICUなどが配置され、4～7階はリハビリ・人工透析、亜急性期病棟、臓器別診療科病棟となる構成です。正面玄関を入ると中央に吹き抜けホール、奥に緑の中庭が配置され、明るい癒しのスペースを体感できます。新S棟とN棟は各階すべてフロアー中央で連絡され、そこに食堂・キッチン・談話室など生活空間も備わっています。

これまでのN棟は、1階部分に救急車搬入口やERを外科系外来と並べて改修整備し、救急医療にも備えます。病院診療を続けながら2期に分けて完成を目指すことになり、工期は着工からでも約3年半かかる予定となります。

当院が、JR松山駅、伊予鉄大手町駅からアクセスしやすいゾーンに存在し、将来、高齢者の人口が増えていく「まちなか」に、安全・安心を提供する場となることが期待されます。

今年、当院では医療人の「協働」と「前進」をスローガンに掲げ、チーム医療を柱に次世代を見据えた改革に取り組んできました。日本の近況は、スポーツ界では「なでしこジャパン」ワールドカップ優勝に国民栄誉賞と、経済界では歴史的円高と株価下落、そして政界では民主党の野田新首相指名、とニュースが続いています。各界ともに、大震災後の復興へ向けて、日本の底力を世界に示し、長期的展望でもって前向きに取り組もうという国民の姿勢を大いに評価したいと思います。

今後とも関係各位の皆様と松山市民病院との交流・連携を宜しくお願い申し上げます。



双海町の夕暮れ